

Challenge

市貝中学校
進路だより No.2
2020、5月



☆ 風薫る5月、充実した生活をしましょう ☆

4月15日(水)の保護者会・PTA総会では、大変お世話になりました。新しい学年となって約1か月が過ぎましたが、休校のため授業が行われておらず、もどかしい日々が続いております。3年生は、最高学年としての自覚を持って頑張ろう、2年生は、中堅学年として3年生や1年生のサポートをしっかりとやろう、1年生は、中学校生活に早く慣れるように日々の生活を一生懸命に頑張ろうと思っていたことと思います。それだけに授業が実施できないことが残念でなりません。しかし、この機会を前向きに捉え、今までの復習に力を入れるとともに、予習を進めることで、授業が再開されたときにより深い学びにつながればと思います。また、進路学習は、日々の学習が大きく左右されます。ご家庭でお子様の家庭学習の様子を見守っていただき、この機会に力をつけ、伸ばしていただければと思います。

5月の特集

子どもの職業希望を育てるためには、どんな手順が必要でしょうか？

～子どもの職業希望を育てる7つのステップとは？～

(1) 「～になりたい」という気持ちを起こさせる。まずは、夢や希望！

高校や大学等の卒業直前になっても「やりたい職業がない」といような未熟な段階にとどまっている子どもがいるようです。これでは、途中で脱落してしまう結果を招く危険もあります。そうならないために、親は我が子に「これから変わることもあるが、今のところは第1に〇〇になりたい、第2には〇〇になりたい」という気持ちを起こさせるようにすることが大切です。

(2) 「なんのために」という目的や理由をとらえさせる

「〇〇になりたい」という希望は、「好きだから」とか「なんとなく」といったところから生まれてきますが、いつまでもそこにとどまってはならないのです。

「〇〇になりたい」のは、「自分にもできそうだから」、「この仕事に満足感が得られるから」、「社会のために尽くしたいから」というような目的や理由などをしっかりとらえさせなければなりません。

(3) 「なるにはどうしたらよいか」を考えさせる

なるための方法やコースを明らかにさせることです。上級学校へ進学する場合でもどんな学校・学科を選ぶか、また、どんな努力をすべきかを慎重に考えさせる事が必要です。

(4) 「なるべきか」を十分検討させる

「〇〇になりたい」とする職業に就くことにより、自分や社会のためにどんなプラスをもたらすか、どんな生きがいが見られるか等について検討させることです。

(5) 「なれるか」を現実に照らして十分検討させる

「やりたい」と思う職業に、誰でも簡単になれるものではないという現実や「なるべきだ、なろう」と心に決める強さが「なれるか、なれないか」にも影響することも考えさせなければなりません。

(6) 「なろう」という意欲をもたせ、実現をめざさせる

「なろう」という強い決意をもち、なるための最大の努力をはらってこそ、その実現が期待できると思います。そのために、周囲の人の激励と見守りが必要となります。

(7) 「なる」

最終ステップは、希望の職業に就けることです。

これは、なれた時点だけではなく、その後の生活で、子どもが自分の特色を十分に発揮し、自分のためにはもちろん、社会のためにもプラスとなり、生きがいのある生活が送れるように「なる」ことを目指さなければなりません。

☆以上のことを年間を通して一つずつ取り組んで生きたいと思います。焦らず、慌てずじっくりと進路について考えていきましょう。